

美術の実践発表 モバイルハウスの制作

美術班：高橋勇太

1. はじめに

私は小、中学校までの美術の授業の中で、絵画の分野は非常に苦手だった。だから高校での美術は、設計・工作の分野を深めようと思っていた。そこで思いついたのが、簡易モバイルハウスの制作である。私がモバイルハウスを制作しようと考えた経緯と、その制作過程の報告を美術班の発表としたい。

2. 制作の経緯、設計、制作

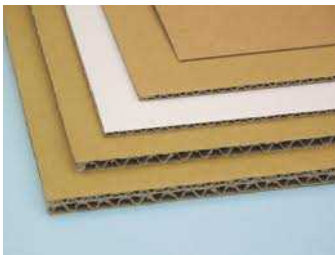
(1) モバイルハウス制作の経緯

三年前の3月11日、東北で東日本大震災がおり、大勢の犠牲者や行方不明者がでて、強制移住や避難を余儀なくされる被災者もいた。避難所では段ボールで仕切りを作って、プライバシーの保護がない状況で人々は生活していた。そこで、私は避難所での活用を目的とした、簡易モバイルハウスを作ろうと考えた。



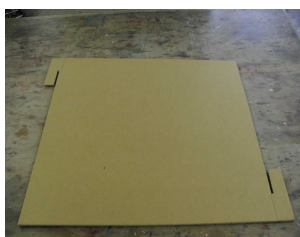
(2) モバイルハウスの設計

簡易モバイルハウスということで、木材の使用を考えたが、材料費や加工のことを考えて、比較的手軽に調達できるように、おもな材料は段ボールを用いることにした。さまざまな型の段ボールを参考に、組み立て式にし、プライバシーの保護のため、屋根も付けることにした。



(3) モバイルハウスの制作

小型の段ボールで試作品をいくつか作り、段ボール板の接合や組み立てなど、設計を少しずつ変えながら制作に取りくんだ。段ボールでの制作は容易ではなく、普段使うはさみでは段ボールをまっすぐに切るのが困難であったため、カッターやのこぎりなどのなれない工具を使用した。



& 段
ド ボール板の
ア の 作成の
作 切取

(4) モバイルハウスの制作時間

画用紙で制作した試作品で、約1時間。小型の段ボールで制作したもので、約1時間30分、完成品は、約3時間30分ほどかかった。



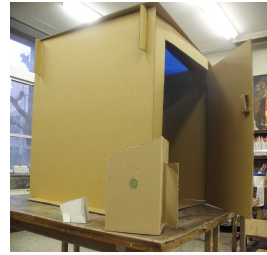
小型の段ボールの試作品



画用紙の試作品



完成品



試作品と完成品

3. まとめ

今回段ボールを使ったモバイルハウスの制作に取り組んできたが、自分の思った通りにならないことが驚くほどあって、苦戦しつつも、新鮮な気持ちで取り組めたと思う。小型のハウスを作るのにも手間取るぐらいだから、実際に私たちの家を建ててくれている建築家や大工の方々は、本当にすごいと思った。

4. 参考文献および参考 Web ページ

- 坂口恭平さんのゼロから始める都市型狩猟採取生活、TOKYO 0円ハウス0円生活、
- モバイルハウスのつくりかた

